

第2回 明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年11月30日（月）午後2時00分～午後4時00分
- 2 開催場所：明治大学黒川農場 1階 会議室
- 3 出席者：[会長] 玉置農場長
[専門部会委員] 佐倉委員、藤原委員、三谷委員、山崎委員、梶委員、梅澤委員、杉山委員、福井委員、鈴木委員、向坂委員、草野委員
(欠席) 針谷委員、市川委員、田村委員、
[事務局] 農産物等研究専門部会 農地課 倉課長、古山係長
地域活性化検討専門部会 企画課 井上課長、白石係長、山中係長
里地里山保全利活用専門部会 みどりの協働推進課 蛭田課長
コンサルタント（株）URリンケージ 遠藤副課長、古山主任

4 議 事：

(1) 今年度の取り組みに関する中間報告

《各専門部会の部会長及び事務局からの主な意見・感想》

①農産物等研究専門部会

- ・今年度は、地元農家の方に収穫祭に参加していただき、黒川産の農産物をPRしていただいた。これは非常に良かったのではないかと思います。特に黒川農場の農産物の中にはない卵などを持ってきていただいたのが良かった。このように農場と地元との接点を増やし、さらに地元の農産物がPRしていく中で、ヒントを得て、新しい商品開発に結び付くようなストーリーが進んでいけば良いと思う。
- ・昨年度の収穫祭と違って、駐車スペースが限られていたため、車での来場者が少なく、大型の農産物、大根などの重いものを売るのが大変だった。
- ・昨年度までは、収穫祭が開催されていることを知らない地元の人も多かったが、今年度は、収穫祭用に農産物を出荷していただけるよう、いろいろな人に声をかけたため、黒川農場収穫祭が開催していると認識された方が多少増えた。今後もこのような取り組みが継続されていけば、お互いに近づいていくことができるのではないかと思います。
- ・また、講習会等も開催できれば、多くの方が黒川農場に足を踏み入れることができ、農場の先生方と接する機会も増えて良いと思う。

②地域活性化専門部会

a)収穫体験

- ・8月1日に20代から40代の女性に限定したトマト・ブルーベリーの収穫体験を実施した。当日は猛暑だったが参加者にも非常に喜んでいただけた。
- ・10月17日にさつまいもの収穫体験とスイーツづくりのイベントを実施した。収穫体験の後はセレスモスにて、スイートポテトづくりや地産食材のレシピ講習会などを実施した。参加

者からは、普段できないことを体験できたという感想をいただいた。

b) 菜の花プロジェクト

- ・菜の花プロジェクトのスイーツレシピについて、農場でも菜の花を栽培し、その油を提供している。黒川農場では、こういう取り組みにも協力しながら、地域との連携を深めている。
- ・本所先生の研究室にご用意いただいたシュークリームとチーズケーキ以外にも、かえるプロジェクトが菜種油を使用して作ったクッキーの販売も行った。

c) 里山アート制作・展示

- ・里山アート制作・展示、サイン・散策マップの制作は、明治大学に芸術学科等の専攻がなかったため、麻生区の5大学連携の中で芸術学科がある和光大学に協力を依頼した。黒川産の材料を使用した作品や、黒川地域ゆかりのテーマをもとにした作品を作っていた。
- ・作品の1つ、「ドームの秘密基地」は10月31日にワークショップを開催し、はるひ野小の低学年（1年生から3年生）の児童が半日かけて制作した。
- ・収穫祭の日は、里山アート散策ツアーを実施し、和光大学の学生や教授、アーティストに作品を解説していただき、総勢20名を超える参加者と約1時間半近く作品をめぐった。
- ・黒川駅から明治大学黒川農場までの間に設置にしたサインについては、地元の方に提供していただいた黒川産の竹を活用して制作した。設置場所については、小田急電鉄やセレスアモス、地元の方、川崎市に協力を依頼し、黒川駅前やセレスアモス、農地、緑地等に設置した。

d) その他

- ・「炭焼き体験シンポジウム」は平成28年度に延期になった。また、炭焼きの炭は竹炭にする。地元と大学の他に、NPOの団体を2団体加えた体制で、シンポジウムを開催し、同時に、簡易な炭焼きの装置で、炭焼きを体験する（実演する）ということも考えている。
- ・「③里山景観づくりの検討」と「④環境整備の検討」については次回以降の専門部会で検討したい。「③里山景観づくりの検討」については、海道の緑地で、のらぼう菜や蓮華を植えたので、花を活用したイベントなどを企画・開催できれば良いと考えている。

③里地里山保全利活用専門部会

- ・今年度は、収穫祭の日に、黒川地域で伐採した竹の活用と地元の方と子どもたちとの交流を目的とした竹行燈づくりを実施した。
- ・地元の方には、事前の準備や試行の段階から時間を割いていただき、三谷教授には、工具の貸し出しや竹行燈づくりの指導も行っていただいた。はるひ野小学校の先生には、参加募集の際に、5～6年生全員にチラシを配布していただきご協力いただいた。多様な方々にご協力をいただき、非常に良いイベントになったと思う。
- ・当日は、竹の切り出しや運び出しを参加者の子供たちが自ら体験することができた。農業用倉庫前での竹のカットやドリルを使用した穴開けは、地元の協力者の方々と事前に指導者講習を行っていたため、当日は指導者と参加者がマンツーマンで、お互いにコミュニケーションをとりながら作業をすることができた。そういう意味では、参加者は15名で、適当な人数で作業ができたと思う。

- ・完成した作品については、資料p 18に掲載している写真をご覧いただきたい。今後は、初詣の時などに汗守神社の参道に竹行燈を飾りたいという意見も出ているので、地元の方と相談しながら今後検討していきたい。
- ・里山保全活動体験については、2月から3月に実施を予定している。地元の方と相談しながらこれも進めていきたいと思う。

《協議会委員の主な意見》

- ・地域資源としてシノダケやモウソウチクなどがあり、サインなどに全て地元の竹が使われていることは非常に良いと思う。里地里山が継続して保全されると景観も変わり、風景が変わると評判も良くなってイベントもしやすくなる。そのような相乗効果も高くなっていくのではないかな。
- ・イベントを開催するから人が来るということだけでは、協議会の方向性としてまずいと思う。黒川地域を活性化し、人を呼び込み、地域にお金が落ちる持続的な仕組みを構築するのが一番の目的だと思う。イベントをやったから来たということではなく、それを契機にまた人が来るような環境にしていかなければならないと思う。
- ・特に川崎市と多摩市や稲城市など隣接しているところに里地里山があり、多摩市については若葉台から唐木田までの多摩よこやまの道という散策路ができていて、そこを歩いている人を引き込むようなカタチで黒川海道特別緑地保全地区の遊歩道を整備していて、それをセレスモスのほうまでつなげられたら良いなと考えている。黒川地域だけで考えないで、もう少し広域的に視野を広げて考えてみてはどうか。隣の多摩市とは市民活動で連携を図っていて、川崎市でも連携している市民団体が出始めてきているため、そのように広げて考えていただきたい。

(2) 実施計画（作成方針）について

《主な意見》

- ・実施計画で一番重要なのは、「平成28年度以降の基本的な進め方」に、どういった項目を入れて、その方針に従っていろいろな事業を重ねていくということになると思う。実施方針の部分がある程度しっかりと固めたうえで、各年度、実施方針に従って事業を実施し、3年間を目途に見直すというカタチで、ある程度そのような筋道がたてられるものとして実施計画書を作っていただきたい。
- ・「基本計画」と「実施方針」と「実施計画」、3つの単語が出てきて、それぞれが何を指しているのかがわかりにくい。記載方法も含めてご検討いただきたい。

5 総括：

- ・この1年でだいぶ変わり、少し地元に入りこめたかと思う。悲しいことに、以前は黒川農場の収穫祭ですら地元の方には認識されておらず、今年までで4回開催してきて、やっと認識されてきた。協議会の取り組みもまだまだこれからPRしていく必要がある。継続して今後も取り組んでいく必要がある。

以上